

2. 火山の概況

(平成 16 年 6 月 17 日 ~ 平成 16 年 6 月 23 日)

浅間山では地震がやや多い状態が続いた。火山活動度レベル（以下レベルと記載）は2。

伊豆大島では島の西部で地震活動が一時活発になった。レベルは1。

三宅島では噴煙活動が継続した。

福徳岡ノ場では変色水が確認された。

阿蘇山では熱的な活動が引き続き活発で、小規模な土砂噴出が継続した。レベルは2。

霧島山では御鉢の噴気活動のやや活発な状態が続いている。

桜島では爆発があった。レベルは2。

薩摩硫黄島では連続的な火山性微動が発生した。

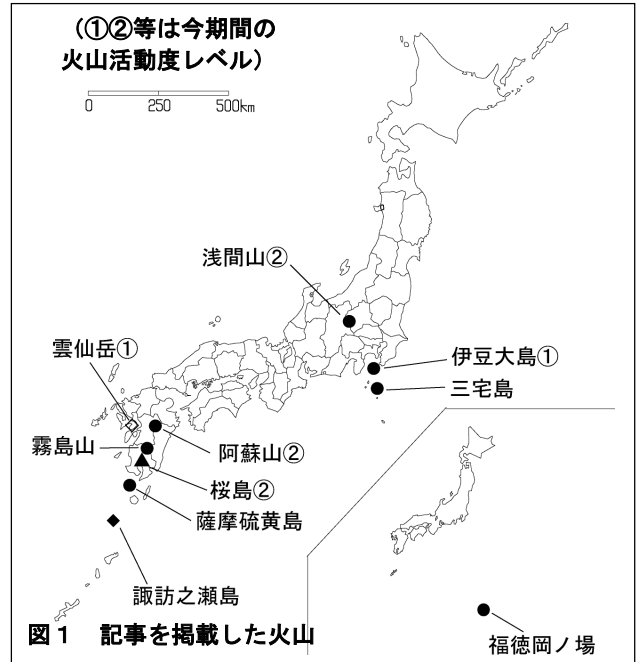


表 1 最近 1 か月に記事を掲載した火山

号	対象期間	浅間山		伊豆大島		阿蘇山		雲仙岳		桜島		富士山	三宅島	福徳岡ノ場	霧島山	薩摩硫黄島	口永良部島	諏訪之瀬島
		レベル	記号	レベル	記号	レベル	記号	レベル	記号	レベル	記号							
26	6/17-6/23	②	●	①	●	②	●	①	◇	②	▲		●	●	●	●		◇
25	6/10-6/16	②	●	①	◇	②	●	①	◇	②	●		●		●	▲	◇	▲
24	6/3-6/9	②	●	①	◇	②	●	①	◇	②	●		●		●	●		▲
23	5/27-6/2	②	●	①	◇	②	●	①	◇	②	◇		●		●	▲		
22	5/20-5/26	②	●	①	◇	②	●	①	◇	②	▲		●		●	●		

注 1 記号の意味

- ▲：噴火した火山
- ：活動が活発な状態にあるか、もしくは観測データ等に変わった火山
- ◆：前期間まで▲や●で掲載し、その後の状況等を掲載した火山
- ◇：その他記事を掲載した火山
- ①②等の丸付き数字：火山活動度レベル

注 2 本文の火山名の後ろの[噴煙・噴気・地震・微動・空振・地殻変動・熱・火山ガス等]は、変化があった観測データ項目を示す。

● **浅間山** [地震・微動・噴煙・熱] レベル2（やや活発な火山活動）

振幅の小さい地震は、昨年6月末頃からやや多く観測されるようになっており、今期間も1日あたり26~65回とやや多い状態が継続した。また、振幅の小さい火山性微動が7回観測された(前期間は2回)。山麓の監視カメラでは、白色の噴煙が最高で火口縁上500mまで上がるのが観測された。赤外カメラ(群馬県林務部が火口縁に設置)では、引き続き火口底に高温部が確認された。

● **伊豆大島** [地震] レベル1（静穏な火山活動）

22日から23日にかけて島の西部で地震活動が一時活発になった。日別地震回数はそれぞれ21回と29回であった。震度1以上の地震はなかった。噴煙活動、地殻変動に変化は見られなかった。伊豆大島で地震活動が活発になったのは3月2日以来である。

● **三宅島** [噴煙・地震・微動]

白色噴煙は山頂火口から連続的に噴出しており、期間中の高さの最高は火口縁上1,000mであった。振幅の小さいやや低周波の地震は、1日あたり35~58回とやや多い状態で推移した。17日昼から18日朝にかけて、連続微動の振幅が約30分おきに増大する現象が見られたが、地震活動、噴煙活動等に変化は見られなかった。

● 福徳岡ノ場 [変色水]

21日に海上自衛隊が実施した観測によると、福徳岡ノ場で半径約9kmの領域にS字状の薄緑色の変色水が確認された。

● 阿蘇山 [熱・土砂噴出・微動] レベル2 (やや活発な火山活動)

中岳第一火口では熱的な活動が引き続き活発で、小規模な土砂噴出が継続した。

17日及び23日に阿蘇山測候所が行った現地観測によると、中岳第一火口の状況は、湯だまりの色は灰色、湯量は約3割で、湯だまりの表面温度の最高は76℃(前期間75℃)、火口壁の最高温度は353℃(前期間354℃)と依然高温状態にあった。湯量は17日の現地観測で約3割に減少しているのが確認された(前期間約4割)。湯だまりの中央部で高さ約5m、その他数ヶ所で高さ2～3mの土砂噴出が観測された。南西側の土砂噴出部分は火口底が露出し、噴気を勢いよく噴出していた。

期間中、火山性微動は連続して観測された。また、孤立型微動は今期間261回発生し(前期間は265回)、依然としてやや多い状態が継続している。

噴煙は白色で、噴煙の高さの最高は火口縁上300m(前期間300m)であった。

地殻変動等その他の観測データには特段の変化はなかった。

◇ 雲仙岳 レベル1 (静穏な火山活動)

地震活動、噴煙活動とも静穏であった。その他の観測データにも特段の変化はなかった。

● 霧島山 [噴気]

御鉢火口の噴気活動はやや活発な状態が続いている。21日と23日に噴気が遠望カメラで観測され、その最高は火口縁上200mであった。

▲ 桜島 [爆発・降灰] レベル2 (比較的静穏な噴火活動)

期間中、噴火が1回あり、爆発であった(20日15時23分発生、前期間は噴火なし)。この噴火による噴煙は悪天のため不明であった。今期間の噴煙の高さの最高は23日の火口上500m(白色)であった。

17日に鹿児島地方気象台(南岳の西南西約11km)で降灰が観測された(前期間は13日、15日及び16日に観測)。今期間の降灰量は0g/m²(1平方メートルあたり0.5g未満の微量)であった(前期間は3g/m²)。

● 薩摩硫黄島 [微動・地震] <期間外の記述を含む>

期間中、噴火は発生しなかったが、17日～18日、19日及び23日～24日(期間外)に連続的な火山性微動が発生した(前期間はなし)。地震の発生回数は74回とやや増加した(前期間は53回)。

◆ 諏訪之瀬島

12日(前期間)以降、火山活動は静穏な状態が続いた。

表2 火山情報発表状況

火山名	情報の種類及び号数	発表日時	概要
三宅島	火山観測情報第334号	17日09:30	活動経過ほか(噴煙・地震・微動・空振・火山ガス・地殻変動の状況、上空からの観測結果、及び上空の風・火山ガスの移動予想)。
	↓(1日2回発表)	↓	
	火山観測情報第347号	23日16:30	
阿蘇山	火山観測情報第33号	18日11:00	火山活動は引き続きやや活発(湯だまりの湯量約3割に減少、湯だまりの高温状態継続、微動連続状態、小規模な土砂噴出が数ヶ所で発生)。レベルは2。